

田中 均

たなか・ひとし=69年京大法学部卒。外務省アジア大洋州局長、外務審議官を経て現在、(株)日本総研国際戦略研究所理事長、(公財)日本国際交流センターシニア・フェロー、東大大学院客員教授。



予想しなかつた過激な発言を行い、とりわけブルーカラーの白人層の支持を拡大し、誰しも

最近色々な地域でポピュリズムの台頭を懸念する声が聞かれる。ポピュリズムは、国民の多くの不満や願望を巧みに活用して支持を拡大していく政治手法を言う。米大統領選挙選挙で共和党では不動産王トランプ氏の躍進が目覚ましいが、トランプ氏の政治手法はポピュリズムそのものである。トランプ氏自身テレビ番組を持っていたこともあり、平易な言葉で語る術に長けている。イスラム教徒の入国禁止やテロリストへの拷問や家族の殺害を匂わす発言、或いは「メキシコとの間に壁を設置し、費用をメキシコに払わせる」とい

時評

ウェーブ

2016. 3. 29

ポピュリズムの何が悪い？

た共和党大統領候補への道のりを歩んでいる。背景にあるのは国民の怒りなのだろう。所得格差が広がるだけでなく不法移民に就業機会を奪われることへの怒り、無差別大量殺戮に対する激しい憤り、そして、歯切れの悪いワシントンの既存政治家への不満であろう。欧州でも同じ傾向が見られる。排外思想を掲げる極右政党が急速

に支持を拡大しているのも、欧州内の移民の増大、100万人を超えるシリア難民の流入やパリでの同時無差別テロが背景にある。英国では人々が大事にしてきた英国的な生活のスペースがイスラム系や東欧出身の貧しい移民に脅かされているという憤りが、EU離脱の雰囲気を高めるに至っている。リベラルな考え方で知られるスウェーデンでも美しい街角にロマ人が物乞いをする姿が目につきたし、ときに、移民排斥の主張が頭をもたげてきた。

ポピュリズムのどこが悪いのだろう。民主主義国家において国民の想いや不満、感情と無縁の政治はありえない。ただ、ポピュリズムの問題点は政治権力が支持を得るために国民感情に迎合し、理念を放棄する点にある。例えば人種差別をしてはならないといった一に反した行動をとる危険が存在する事である。国民の圧倒的な怒りの前にポピュリズムに抗することが出来ず、社会の良識が失われていくことも容易に想像できる。戦前のドイツや日本ではポピュリズムが席巻し、これをチェックする仕組みが失われ、誤った戦争への道を歩

んでいった。今日、ポピュリズムをチェックするメディアや有識者の役割が薄れてきたのではないかと感じることもある。メディアのあり方や政治との関係は色々議論されているが、重要であるのはメディアや有識者の独立性を守ることが、民主主義の擁護に直結すると言っている。強大な政治権力を感じたときメディアは萎縮するし、報道そのものを「忖度」してしまう結果にもなりかねない。政治家の本来の役割はポピュリズムに乗っかるのではなく、客観的な利益判断をして国民を説得することにある。プロフェッショナルはこのような政治の役割を助けて行かねばならない。又、メディアは独立性を担保して多様な議論を紹介していくのに躊躇があつてはならない。多様性こそが良識はぐくみ、社会の強靱性を生むことになるのだから。